

# 神戸市周辺の蜻蛉目

松本健嗣

神戸に住む筆者が思い立って地形図を頼りに水生昆虫を求めて市内周辺各処を歩き廻っていたのは1960年代のことである。穏やかな水辺が多く失れた今、当時を振り返り、特に懐しい蜻蛉目について述べてみたい。以下の地名は大概幼虫、羽化殻、産卵のいずれかを採集目撃した場所である。( )は現在、地形環境が当時と大きく変わっていることを示す。

## アオイトトンボ科 LESTIDAE

1. コバネアオイトトンボ *Lestes japonicus* Selys  
(西区押部谷町栄), 神出町金棒池。
2. オオアオイトトンボ *Lestes temporalis* Selys  
北区山田町山ノ街 他。
3. アオイトトンボ *Lestes sponsa* Hansemann  
須磨区妙法寺池ノ尻 他。
4. オツネイトンボ *Sympetna paedisca* Brauer  
長田区一里山町(成虫1970-X-26)。
5. ホソミオツネイトンボ *Indolestes peregrinus* Ris  
一里山町 他。

## モノサシトンボ科 PLATYCNEMIDIDAE

6. グンバイトンボ *Platycnemis foliacea sasakii* Asahina  
垂水区舞子墓地公園 (西区押部谷駅北), 三木市花尻。
7. モノサシトンボ *Copera annulata* Selys  
北区山ノ街 他。

## イトトンボ科 COENAGRIONIDAE

8. キイトンボ *Ceriagrion melanurum* Selys  
北区山ノ街 他。
9. ベニイトンボ *Ceriagrion nipponicum* Asahina  
西区伊川谷町小寺橋, 榎谷町谷口南谷大池, 明石公園。
10. モートンイトンボ *Mortonagrion selenion* Ris  
山ノ街 他。
11. アオモンイトンボ *Ischnura senegalensis* Rambur  
伊川谷町小寺橋。

12. アジアイトトンボ *Ischnura asiatica* Brauer  
明石市藤江海岸 他。
13. ホソミイトトンボ *Aciagrion hisopa* Selys  
山ノ街 他。
14. セスジイトトンボ *Cercion hieroglyphicum* Brauer  
山ノ街 他。
15. オオイトトンボ *Cercion sieboldii* Selys  
(山田町小河シブレ山東麓), 山ノ街, 明石公園。
16. ムスジイトトンボ *Cercion sexlineatum* Selys  
宝塚市ファミリーランド。
17. クロイトトンボ *Cercion calamorum* Ris  
山ノ街 他。

カワトンボ科 CALOPTERYGIDAE

18. ミヤマカワトンボ *Calopteryx cornelia* Selys  
有馬温泉 他。
19. アオハダトンボ *Calopteryx virgo japonica* Selys  
北区道場駅附近(成虫)。
20. ハグロトンボ *Calopteryx atrata* Selys  
西区榎谷町菅野榎谷川 他。
21. ナワカワトンボ *Mnais nawai* Yamamoto  
北区山田町原野山田川 他。
22. カワトンボ *Mnais pruinosa* Selys  
北区有馬町紅葉谷 他。

ムカシヤンマ科 PETALURIDAE

23. ムカシヤンマ *Tanyhteryx hryeri* Selys  
宝塚市武田尾(成虫1968-V-26)。

サナエトンボ科 GOMPHIDAE

24. ヤマサナエ *Gomphus melaenops* Selys  
山田町藍那 他。
25. キイロサナエ *Gomphus pryeri* Selys  
北区道場町塩田, 山田町上銜原, 淡河町萩原, 三木市安福田(いずれも成虫)。
26. ホンサナエ *Gomphus postocularis* Selys  
道場町塩田武庫川。

27. フタスジサナエ *Trigomphus intrruptus* Selys  
中央区再度山猩猩々池 他。
28. オグマサナエ *Trigomphus ogumai* Asahina  
三木市志染町窟屋 他。
29. タベサナエ *Trigomphus citimus tabei* Asahina  
三木市志染町窟屋。
30. ダビドサナエ *Davidius nanus* Selys  
有馬温泉 他。
31. オジロサナエ *Stylogomphus suzukii* Oguma  
北区有野町地獄谷 他。
32. アオサナエ *Nipponogomphus viridis* Oguma  
北区道場町塩田有馬川, 山田町谷上駅(成虫1965-V-24)。
33. オナガサナエ *Onychogomphus viridicostus* Oguma  
三木市雌岡山(成虫)。
34. コオニヤンマ *Sieboldius albardae* Selys  
山田町原野柏尾谷 他。
35. ウチワヤンマ *Ictinogomphus clavatus* Fabricius  
明石公園 他。

オニヤンマ科 CORDULEGASTERIDAE

36. オニヤンマ *Anotogaster sieboldii* Selys  
長田区一里山町 他。

ヤンマ科 AESCHNIDAE

37. サラサヤンマ *Jagoria pryeri* Martin  
北区山田町金剛童子山, (シブレ山東麓), (西区押部谷駅北), 三木市志染町窟屋  
淡河町大杉。
38. ミルンヤンマ *Planaeschna milnei* Selys  
山田町原野柏尾谷 他。
39. コシボソヤンマ *Boyeria maclachlani* Selys  
北区山田町原野, 西区太山寺境内伊川, 榎谷町寺谷寺谷川。
40. ネアカヨシヤンマ *Aeschnophlebia anisoptera* Selys  
妙法寺町池ノ尻, (垂水区名谷町奥畑)。
41. アオヤンマ *Aeschnophlebia longistigma* Selys  
(西区押部谷町栄), 神出町田井, 明石公園。

42. カトリヤンマ *Gynacantha japonica* Barteneff  
山田町柏尾谷 他。
43. ヤブヤンマ *Polycanthagyna melanictera* Selys  
須磨区多井畑厄神 他。
44. オオルリボシヤンマ *Aeshna nigroflava* Martin  
六甲山高山植物園 他。
45. マルタンヤンマ *Anaciaeschna martini* Selys  
須磨区多井畑岡ノ辻, (垂水区潮見台), 明石公園。
46. クロスジギンヤンマ *Anax nigrofasciatus* Oguma  
山ノ街 他。
47. ギンヤンマ *Anax parthenope julius* Brauer  
山ノ街 他。
- ヤマトンボ科 **MACROMIIDAE**
48. オオヤマトンボ *Epopthalmia elegans* Brauer  
伊川谷町前開坪池 他。
49. コヤマトンボ *Macromia amphigena* Selys  
山田町坂本山田川 他。
50. キイロヤマトンボ *Macromia daimoji* Okumura  
道場町千苺 (成虫 1959-V-25)。
- エゾトンボ科 **CORDULIIDAE**
51. トラフトンボ *Epithea marginata* Selys  
山ノ街 他。
52. タカネトンボ *Somatochlora uchidai* Foerster  
六甲山町ガルベン池附近 他。
53. オオエゾトンボ *Somatochlora viridiaenea atrovirens* Selys  
六甲山町三国池附近, 山田町金剛童子山, 西区押部谷町栄シブレ山西麓。
54. ハネビロエゾトンボ *Somatochlora clavata* Oguma  
長田区一里山町, 北区淡河町大杉, (垂水区名谷町奥畑)。
- トンボ科 **LIBELLULIDAE**
55. ハラビロトンボ *Lyriothemis pacygastra* Selys  
須磨区多井畑岡ノ辻 他。

56. シオヤトンボ *Orthetrum japonicum japonicum* Uhler  
東灘区住吉台 他。
57. シオカラトンボ *Orthetrum albistylum speciosum* Uhler  
山ノ街 他。
58. オオシオカラトンボ *Orthetrum triangulare melania* Selys  
長田区堀切町 他。
59. ヨツボシトンボ *Libellula quadrimaculata asahina* Schmidt  
山田町小河 他。
60. ハッチョウトンボ *Nanophya pygmaea* Rambur  
山田町金剛童子山 他。
61. ショウジョウトンボ *Crocothemis servilia* Drury  
垂水区塩屋台 他。
62. コフキトンボ *Deielia phaon* Selys  
垂水区塩屋台 他。
63. タイリクアカネ *Sympetrum striolatum imitoides* Barteneff  
伊川谷町別府福寿池, 加古郡稲美町琴池, 明石市大久保町。
64. ミヤマアカネ *Sympetrum pedomontanum elatum* Selys  
北区有野町下唐櫃 他。
65. アキアカネ *Sympetrum frequens* Selys  
妙法寺町池ノ尻 他。
66. ナツアカネ *Sympetrum darwinianum* Selys  
山ノ街 他。
67. リスアカネ *Sympetrum risi* Barteneff  
山ノ街 他。
68. ノシメトンボ *Sympetrum infuscatum* Selys  
西区神出町金棒池 他。
69. コノシメトンボ *Sympetrum baccha matutinum* Ris  
榎谷町谷口南谷大池 他。
70. マユタテアカネ *Sympetrum eroticum eroticum* Selys  
山ノ街 他。
71. マイコアカネ *Sympetrum kunckeli* Selys  
山ノ街 他。

72. ヒメアカネ *Sympetrum pervulum* Barteneff  
北区淡河町志久峠 他。
73. マダラナニワトンボ *Sympetrum maculatum* Oguma  
西区楯谷町栃木, 同長谷, 同谷口南谷大池, 伊川谷町別府福寿池 他。
74. ナニワトンボ *Sympetrum gracile* Oguma  
楯谷町谷口南谷大池 他。
75. ネキトンボ *Sympetrum speciosum speciosum* Oguma  
山田町金剛童子山, 山ノ街, 妙法寺町池ノ尻。
76. キトンボ *Sympetrum croceolum* Selys  
西区神出町金棒池 他。
77. オオキトンボ *Sympetrum uniforme* Selys  
伊川谷町別府福寿池 他。
78. コシアキトンボ *Pseudothemis zonata* Burmeister  
明石公園 他。
79. チョウトンボ *Rhyothemis fuliginosa* Selys  
妙法寺町池ノ尻 他。
80. ハネビロトンボ *Tramea virginia* Rambur  
定着せず。
81. ウスバキトンボ *Pantala flvescens* Fabricius  
定着せず。

## 解 説

ギンヤの姿さえ少なくなった今日、以下は懐旧談に過ぎないかもしれないが、神戸での稀少種、即ち分布圏内に制限されるもの又は人工的な水域に適応し難いものを地形上から三つのカテゴリーに分けてみると、まづ第一に主として基盤山地上に見られる種では、赤褐色の泥土層を形成する酸性湿地帯、これが多いのは六甲山の特色であるが、ヒメアカネがその代表種である。それからハッチョウトンボ、サラサヤンマ、オオエゾトンボ、ハネビロエゾトンボと云った種が泥の中又は周りの水域にすんでいる。ネアカヨシヤンマも今ではこのような湿地に残っている。第二に全然露岩のない平地丘陵のものとしてはコバネアオイトトンボ、ベニイトトンボ、ムスジイトトンボ、アオヤンマ、マダラナニワトンボ。いずれもデリケートで滅び易い種である。第三には河川系にすむ種であるが、まづ道場町武庫川のホンサナエ、他六甲山系水源の河川では特に論ずる程のフォーナは形成していないと言ってよい。

今少し詳しく述べるとコバネアオイトトンボ、これは洪積台地の遠浅の池に産し、特定の水生草本（当地で私が知る限りではカヤツリグサ科カンガレイ）の茎にのみ卵を産付する珍しい種である。風の強い日には水面下底迄降りて産む。グンバイトンボは中国山地水源の河川の上中流域に産地が多いが、当地の棲息地は往年の武蔵野台地と同様推積層湧水地のものとして注目される。しかしこゝも武蔵野と同じく過去のものとなりつゝある。ベニイトトンボは明石市東部から西区榎谷町伊川谷町方面に拡がる明石層群と称される準平原状洪積丘陵周辺にのみ棲息している。池では同属のキイトトンボと共棲しているが好んでヒツジグサの葉裏に産卵するところから本種はやゝ深い水域にすむらしい。以前は現在の神戸市街地の丘陵下の池（例えば西代蓮池）、更には伊丹市周辺の池にもいたと推定されるが、現在兵庫県では此の方面が本種の唯一の棲息域らしい。

オツネイトンボは近畿では少い種で、成虫期が長いので彷徨性が大きく採集例は偶発的である。ムスジイトンボとカワトンボ科アオハダトンボは筆者不幸にして当地では調査不十分である。前者は沖積地河川沿いの池沼のものであるが棲息地は今では殆んど消滅したと考えられる。後者はグンバイトンボと同じく中国山地水源の河川の上中流域に棲息地が多い。有馬川有野川等武庫川に注ぐ川での産否を確かめるべきであったと思っている。

嘗て六甲山にムカシトンボがいたことは戸沢信義氏の記録（鷲林寺及び御影附近、1930）によって知られる。千メートル級の山ならばいてむしろ当然だが戦後の六甲山の姿からはこの記録は意外に感じられる。即ち谷川の川床には白砂が積り、そうでない処でも母虫が卵を産むワサビ、フキ、オタカラコウと云った葉柄の長い草本が流れの側には殆んど見られずこの成長の遅い気むづかしい種がすむに相応しい雰囲気は何処にもない。花崗岩の急峻な地形では天然林の伐採により表土が谷間に溢れ環境が一変するのだろう。採集記録が1938年の所謂阪神大水害以前であることに注目したい。ムカシヤンマは国内分布、棲息環境においてムカシトンボ以上に不可解な種である。以前武田尾附近には割合いたらしいが、六甲山からの採品として私が見たものでは1966年7月1日芦屋市高座ノ滝での藤田吉彦氏（筆者同氏とは面識なし）採集のものが唯一である。裏六甲帝釈山系には一見いてよい環境があるのだが未だ見ることができない。

サナエトンボ科のトンボは低山の小池から羽化するフタスジサナエも平野の広大な池沼に多いウチワヤンマも清流にすむダビドサナエなどと同様皆河川のトンボとみることが出来る。因にウチワヤンマの卵は明らかに流れに抗する構造になっている。流路複雑で長大な河川系には幾多の種がすんでいる。前述の道場町のホンサナエは1965年頃には沢山いたが武庫川の汚れがひどい現在どうなっているだろうか、近畿では琵琶湖淀川水系以外では数少い産地でもある。海に近く急峻な六甲山系水源の河川のサナエトンボ類は前述のごとく貧弱であるが、その中ではアオサナエ、これは全国的には今でも決して珍しい種ではないが、鮮緑色のスマートな種で、六甲山系のサナエトンボとしては特筆に値する。

しかし、これも川の汚れのひどい現在既に絶えたかもしれない。キイロサナエの幼虫は当地では未だ得たことはないが、帝釈山系の周囲でよく成虫が捕獲されるところから岩の多い谷川の水源近くの砂泥上で産卵孵化、下へ移動し、麓を流れる川で成育羽化するらしい。

タバサナエは精査すればまだ各地にいると思われるが、以前台地丘陵の湿地内の水溜りやごく緩やかな小流中で成育していた。近似種フタスジサナエも元来こう言う環境のものであるがこれは基盤山地上にも棲息し谷をせきとめて造った小池で今も盛んに繁殖している。同じく普通種ウチワヤンマは元来低地に多いが、最近低山上の広く浅い池へ進出している。しかし彷徨性（移動性）が大きく常住しないように見える。次にヤンマ科ではまずサラサヤンマ。低山、台地の谷間の泥土層にすむ原始的な種で曾て水田の拡大により大いに打撃を被ったと思われ、更に現在では土地開発により棲息地は残り少なくなった。六甲山麓東部の住吉、芦屋奥池方面にもいた形跡が見られる。母虫は泥土上の枯枝、ハンノキの根等に卵を産む。一世代完了年数は私は知らない。低山丘陵の樹林内の流れにすむコシボソヤンマも上流域の開発によって激減した種である。流水のヤンマとしてはミルンヤンマが山地上密林中の谷川にすむのと較べて今後の生存には不利である。前者は土石上のコケに、後者は枯枝の組織内に卵を産む。アオヤンマは土壤肥沃な低地のガマが密生する泥沼のヤンマであり、場所は既して人家の近くである。以前は城郭の濠で繁殖し都会の昆虫であったが今では環境が悪化し、沼も埋られ全国的にも珍奇な存在となってしまった。現在神戸市内で私が知る限りでは唯一の棲息地神出町田井のそれは洪積台地上山田疏水によって潤されている沼で、こゝへは近年進出して来たらしい。当地では基盤山地上には本種がすむに適した沼は見当たらない。成虫は昼間池上低く草間を徘徊し交尾もそこで行うが矢張り本種の場合も近くに高木が密に繁茂した森の存在が必要である。一世代は二年以上。同属のネアカヨシヤンマはアオヤンマが低地に多いのに対し、低山丘陵のもので土壤瘠悪な灌木疎林地帯にも棲息する。幼虫は湿地内の浅い水溜り、細流にすむ。本種も水に馴れ切らない原始的な面を残しており飼育の際には羽化に先立つ3ヶ月前、3月には背部が水面上に出る低度の浅瀬を作らないと“溺死”する。卵はセリ等の茎に上述のヤンマ類と同じく水上部に産み付けられる。産卵期以外水辺に現われることは少いが成虫はヤマトンボ科、エゾトンボ科のように上空を巡回飛翔する習性があり、すぐにそれと判る。新鮮な個体は日本産蜻蛉目切っの豪華版であり、特にメスは美しい。マルタンヤンマは夕刻上空高く飛び成虫の姿を間近に見る機会は非常に稀である。棲処はアオヤンマとは同じであるが休耕田の片隅の矢張りガマが生じた水溜りでも幼虫が見つかる。本種は1年で成虫になるのでより機動性に富んでいるのだろう。これも低地のもので昔はいくらでもいたであろう。

キイロヤマトンボの当地唯一の採集記録は日浦勇氏のもので成育場所は不明。他に猪名川、加古川の上流でとれている外近畿で知られた産地は少い。幼虫はかなり大きな河川の上流水草の多い緩流域にすむと言う。

オオエゾトンボは最近迄は神戸では比較的多かった種で中心街の路上を巡回しているのをよく見か

けた。幼虫は酸性湿地帯の泥底の水溜り、細流中にすむ。ハネビロエゾトンボは露岩の多い低山集水域のサワガニがいるような砂十泥底の小流中の朽葉下で幼虫がみつかる。近くに前種がすむ水域がある場合もあるが本種の棲息地は一般に高木の少い明るい低山地である。

両北区に広く分布する美しい春のトンボ、ヨソボシトンボは水酸化鉄を含む泥土が適するためか以前山間に溜池が沢山あった頃には六甲山系には格別多いトンボのような印象を受けた。翅斑の発達した個体を *praenubila Newman* 型と称し山田町内でしばしば見ている。兵庫県下から 17 種が知られる *sympetrum-flies* の中で注目すべき種としては旧北系のタイリクアカネ、これの国内分布は特異であり、また棲息地は主に海に近い低地の池沼である。羽化後成虫は内陸山間へ移動し夏期裏六甲で二度採集している。昔は現在の神戸市街地にも沢山いた筈だが、今当地での棲息地は西区、明石方面でそれも少くなった。しかし大阪市内では水泳プールで幼虫が発見された例がある。ヒメアカネは低山のオオミズゴケ、モウセンゴケが生える泥湿地に群棲し、ハツチョウトンボと共棲する 경우가多いが、よく見るとハツチョウトンボが小さいながら水溜りに産卵するのに対し本種は水を避けて泥土上に卵を産んでいる。マユタテアカネは低山に今も相変わらず多いがメスの腹部がオスと同様赤化した個体がいるのは面白い。私が知っている当地でのマダラナニワトンボの産地は前述のベニイトンボが産する西区榎谷町方面の丘陵地だけである。溜池ができる以前はなだらかな谷間の粘土層上の湿地に群棲していたものと想像している。新幹線すぐ北の伊川谷町白水福寿池は今では周囲の樹林はなく家が建て込んでいて此処には今もいる。ナニワトンボは樹林に囲まれた池にすみ、かなり普遍的に分布し基盤山地上にも進出している。だが以前私がよく採集した池は今ほとんどなくなってしまった。ネキトンボも同様である。オオネキトンボは低地の広い遠浅の池で見られ離散性が大きく群棲せず以前から余り多くない。南方から飛来するハネビロトンボは神戸市内でも夏期に幾度か見ている。中でも北区ひよどり台南端消防学校南の山間（此処は拙宅の近くであるが）、では 1969-71 年の 8 月、オス数匹が水田上にテリトリーを張っているのを見ている。だが神戸では未だメスを見ていない。播州青野ヶ原自衛隊演習場では生活史が観察されているが、そこは水草の多い遠浅の池で、羽化の際には茎を攀じる。ウスバキトンボのようにプールの垂直な壁面から羽化することはできないらしい。無論当地では越冬できない。

他に今後当地で発見の可能性があるものとしては、北上中と言われるタイワンウチワヤンマ、南方系の偶産種オオギンヤンマ及びアメイロトンボ。タイリクアカネとオナガアカネは目下日本海沿いの地で得られているが、当地でも一応可能性が考えられる。武庫川上流源流山地に棲息するルリボシヤンマ、ヒメクロサナエ、クロサナエのうちヒメクロサナエは山間の落差の余り大きくない長い谷川におり、西宮市北部一帯を今一度調べてみたい。ルリボシヤンマは氷河の後退と共に北地、高地へ逃れたものと言う説もあるが六甲山にはいないと思う。尚本文中芦屋市での藤田吉彦採集のムカシヤンマ、これは同年神戸市教育委員会主催の夏期理科作品展に出ていたものであるが、採集時期がやゝ

遅いのが気になるが同氏(当時市立住吉中学校生徒)の当時学究的態度はその採集日誌より窺はれるので同所でとれたことは間違いないと確信している次第である。末筆ながら採集例を引用させて頂いた東輝弥, 岡泉, 日浦勇, 宮武頼夫の諸氏, 及び日本蛸蛉学会諸兄に謝意を表す。

(1982. 9. 12 記)

### 参 考 文 献

1. 新昆虫 Vol. 10 No. 2 p.56 1957 朝比奈
2. 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第 6-9 集

## 宝塚大橋の照明燈で採集した蛾(続報その1)

新 家 勝

### I はじめに

1978年から1980年の間に、宝塚大橋の照明燈で採集した蛾について、本誌の第9巻第1号、第9巻第2号および第10巻第1号で報告させていただいたのに引き続いて、今回、1981年の採集分について報告させていただく。1978年から1980年にかけて、毎日の通勤時に、宝塚大橋で蛾類の採集をしていたところ、3年目の1980年には、ここで新たに採集できる蛾が減少したことを、前回の報告で述べたのではあるが、1981年は意外に多数の蛾を採集できた。1980年末に勤務先が変わり、朝夕の通勤時に、宝塚大橋で蛾の採集ができなくなったので、1981年は帰宅後、ここへおもむいて蛾の採集をすることにした。このため、採集の時間帯が変わったので、採集できる蛾の種類が変わったことが、1981年に新たに採集した蛾が多かったことの大きな原因と思う。

なお、今回もまた、採集場所については、前回同様、「宝塚市」を省略して記載する。

### II 採 集 結 果

1. Sphingidae                      スズメガ科
  - (1) *Dolbina tancrei* Staudinger                      サザナミスズメ  
1981. 8. 7                      武庫川町
  - (2) *Macroglossum saga* Butler                      クロホウジャク  
1981. 9. 13                      武庫川町
2. Sturniidae                      ヤママユガ科